

# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

### 女子大学から生まれるイノベーション

—その2. サイエンス&エデュケーションセンターの取り組みから—  
サイエンス&エデュケーションセンター 宮本康司氏

### 山崎直子宇宙飛行士O.F.K返還記念講演会

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人  
お茶の水学術事業会

## REPORT

共催講演会のご報告

菅 聡子氏「樋口一葉の生—弱者への、  
そして弱者からのまなざし」

男女共同参画促進事業のご報告

「文京区 女性のためのパソコン教室」

協賛事業のご報告

『絵日記による学童疎開 600 日の記録展』  
(平和祈念プロジェクト 21)

## INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報

ブックレット9

「子どもは変わる・大人も変わる  
—児童虐待からの再生」発行

事務局よりお知らせ

# 女子大学から生まれるイノベーション

— その2. サイエンス&エデュケーションセンターの取り組みから —

サイエンス&エデュケーションセンター 宮本康司



## I 教育を通じた社会連携

サイエンス&エデュケーションセンターは、お茶の水女子大学 / センター本部 / 社会連携部に属し、科学教育に関わる様々な事業を推進しています。まず、そのうちの3事業をご紹介します。

### ①「文京区理科支援事業」

東京都文京区教育委員会の委託を受け、区立中学校全校（10校）を対象に、担当講師が出前授業を実施しています。正規の理科授業において、生徒の科学に対する興味・関心を喚起し、理解を深めることが目的です。本事業で開発した授業カリキュラムや、それらが生徒・教員にもたらす効果については、日本理科教育学会などで発表しています。

### ②「理科教育支援者養成事業」

理科教育を支援する人材を養成することを目的に、公開講座にて理科教育支援者の養成と認定を行っています。その前身は、文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」課題に採択され支援を受け、「理科学習アドバイザー」コース、「理科支援員」コース、「理科支援員コーディネーター」コースの3コースを開発、開講した実績によります（平成19年度～平成21年度）。その3年間の支援期間中、延べ281名が受講し、そのうちの延べ215名が、受講後の雇用を得ています。受講者の約8割は女性であり、本学の基本目標「学ぶ意

▲宮本康司 (MIYAMOTO KOJI)

2004年東京工業大学大学院生命理工学研究科修了。博士(理学)。お茶の水女子大学特任講師を経て、2009年より同大学サイエンス&エデュケーションセンター特任准教授。専門は科学教育、環境教育、動物行動学、生態学。2009年度より、同大学『「理学する心」を持つ小・中学校教員の指導者養成」事業（科学技術振興機構 / コア・サイエンス・ティーチャー養成拠点構築事業）を担当。

欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として」にのっとった事業です。

### ③「『理学する心』をもつ小・中学校教員の指導者養成事業」

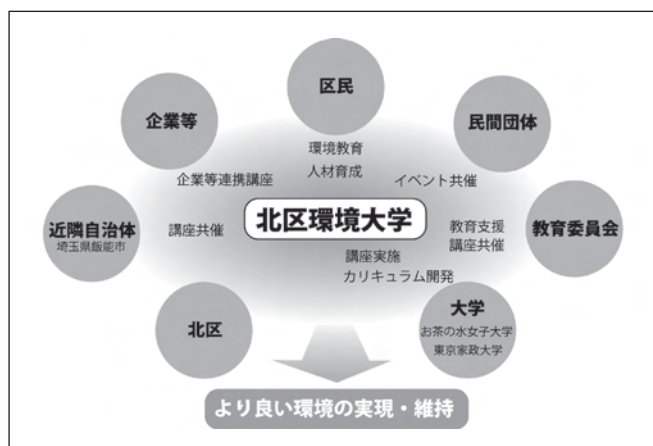
平成21年度に、科学技術振興機構がすすめる「理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）養成拠点構築事業」課題として採択され、地域の理科リーダー教員であるCSTを東京都教育庁と連携して養成しています。CSTをめざす本学理学部出身修士学生は「CST副専攻」に所属し、現職教員とともに研鑽しています。平成22年度からは都内各地で、多くの小学校現職女性教員を含むCST教員が教員研修会の開催を開始しており、本学の掲げるミッション「女性リーダーの育成」が着実にすすめられています。

## II 「北区環境大学事業」

### 北区環境大学事業とは

東京都北区は、平成17年に制定した「元気環境共生都市宣言」において、「豊かで健康に暮らし続けることができ、すべての息づくものが共生できる環境をめざして、区民と区、地域が一体となって取り組んでいくこと」を宣言しています。そしてそれを具現化すべく、平成20年から「より良い環境を次の世代へ継承するための仕組みづくり機構」たるソフト事業として、『北区環境大学事業』を開始しました（資料1）。その中で、サイエンス&エデュケーションセンターは「環境学習カリキュラム等の開発研究委託」を担い、講座群の開発・開講と、その効果測定を行っています。

資料1 北区環境大学事業概念図



## 開講している講座群

開講している講座群は「家族参加型講座」や「一般向け講座」など多数あり、小学生をもつ家族、主婦、退職者まで、広い範囲の対象者をカバーしています(資料2)。どの講座も、単に環境問題を扱う講座ではなく、共通のコンセプトを『環境問題について考えるために必要な様々な学問分野を学び、地球が本来持つ循環の仕組みや人間の営みの根本を基礎から理解すること』としています。例えば、地球温暖化問題について考えるために、本来地球がもっている恒常性の仕組みや熱力学を基礎からしっかり学ぶ、それをもって温暖化が生じ得る原因を理解し、自らの行動規範を構築していく、ということです。以下に、特徴的な2講座を紹介します。

### ①ホテル環境講座(写真1)

江戸時代、東京都北区は谷中の螢沢、高田の落合と並ぶホテルの名所でした。この講座では、受講者は年間を通して家庭でホテルを飼育し、生息に必要な環境条件や幼虫の成長に伴う行動の変化などの具体的なテーマについて研究をすすめます。これからの社会を担う子どもたちが身近な環境問題に関心を持つだけでなく、大学が提供する教育カリキュラムによって、思考力や表現力を大きく育て、グローバルな環境問題に対しても適切な判断や活動ができるようになることを目的としています。成果として例えば受講者のひとり、この講座での研究内容を「ホテルのレポート」としてまとめ、自由研究コンテストのひとつである平成21年度第15回サイエンス・グランプリ(東京A地区)へ応募し見事に上位10点に入賞しました。(応募総数3768点)

### ②一般向け講座(写真2)

資料3に、一般向け講座のカリキュラム構成を示します。基本コースでは4コース(「人間活動と環境への影響」・「地球上の循環と汚染」・「気候変動と生物多様性」・「食料危機と水問題」)

写真1 ホテル環境講座(生息地見学)



## 資料2 開講講座群一覧

家族参加型講座	基本コース	子ども環境講座	年間2回	1回=5時間×2日間実習
	研究コース	ホテル環境講座	毎月第2日曜	
		ヘチマ環境講座	毎月第4日曜	
	夏休み自由研究コース	海の環境講座	2泊3日	
		山の環境講座	2泊3日	
一般向け講座	基本コース		年間4コース	1コース=2時間×4日間講義+1回実習
	応用コース		年間1コース	

## 資料3 一般向け講座カリキュラム

	コース名	内容
基本コース	人間活動と環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口と経済</li> <li>エネルギー</li> <li>森林資源</li> <li>廃棄物</li> <li>見学会</li> </ul>
	地球上の循環と汚染	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害物質</li> <li>大気と海洋の循環</li> <li>生物濃縮</li> <li>人為移動</li> <li>見学会</li> </ul>
	気候変動と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>温暖化の仕組み</li> <li>温暖化と気候変動</li> <li>炭素循環</li> <li>生物多様性</li> <li>見学会</li> </ul>
	食料危機と水問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂漠化</li> <li>酸性雨</li> <li>淡水循環</li> <li>食料問題</li> <li>見学会</li> </ul>
応用コース	環境社会への指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境対策技術</li> <li>思想</li> <li>哲学</li> <li>どう生きるか</li> <li>見学会</li> </ul>

写真2 一般向け講座



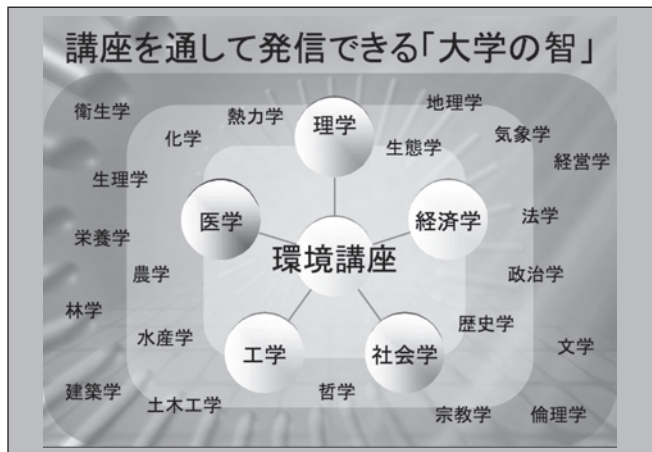
題)」を用意し、それぞれのコースにテーマを設定して理解を深めます。応用コースでは1コース（「環境社会への指針」）を用意し、基本コースの内容を踏まえた上で工学的、哲学的アプローチから環境問題の解決に向けた取り組みを学び、生き方を考えます。各回の講義にはそれぞれの学問分野の第一線で活躍している現役研究者を講師として招聘し、受講者がコースを順に受講していくことにより深くかつ幅広く学び、考える力をつけていけるような構成にしています。授業前後に行った調査結果から、これらのカリキュラムが受講者に対して「学問分野に対する馴染み度」「用語に対する理解度」などの向上をもたらすことも明らかになっており、成果は日本科学教育学会などでも発表しています。

### Ⅲ 社会貢献の新しいかたち

#### 大学智へのまなざし

さて、前節で紹介しました北区環境大学事業における講座群は、大学の智を結集して一般市民の智を育む構造です。注目すべき2点は、その大学智がいわば「教養力を高める」ものであることと、地方自治体が大学に対し「カリキュラム開発」を研究委託して実施していることです。「経済活動に直接役立つ」大学智ではなく、ボランティアによって開講されているものでもないのです。地方自治体における事業推進においては、例えば区庁に課せられる区議会への説明責任や区民による区政モニター制度など、一般市民と行政の距離が近く、民意が大きく影響してきます。そうしたなかで、地方自治体が大学の智に対して出資をするということは、税金を納める一般市民がその出資を了承しているということであり、大学の提供する純粋な智そのものを希求する土壌が醸成されつつあると言えます。（資料4）

資料4 大学が発信できる智



#### 大学の持つひとつの使命

昨今、「ソーシャルビジネス」として、ビジネスの手法を用いて社会的課題を解決する形態が脚光を浴びつつあります。社会的課題とは、教育、環境、暮らしなどの分野で、金融先行資本主義が作用しにくく社会全体が抱える諸問題のことです。これまで、社会的課題を解決する方策は、政策や寄付、ボランティア活動等が担ってきました。「ソーシャルビジネス」のような取り組みを支援するのも大学の役目かもしれませんが、そもそも、大学がその機能をもつべきことこそ理想ではないでしょうか。「国立大学法人」であれば、尚更その責務は大きいものと考えます。お茶の水女子大学は「国立大学法人お茶の水女子大学社会貢献ポリシー」を制定しています。そこには、「本学は、企業等との連携、地方自治体の政策形成への寄与、地域社会における市民活動との連携等の幅広い産学公連携の推進のための組織的取り組みを行う」とあります。このことの自立的な成功例のひとつが、『北区環境大学事業』であると言えます。

#### 豊かな社会への先導者として

ここまで述べてきた教育を通じた社会連携のありかたは、従来の単なるアウトリーチ活動（公共機関が地域に対して行う出張サービス。研究者が実施する場合は『出前授業』の形態が一般的。）とは完全に一線を画すものです。アウトリーチ活動に対して大学教員の持つイメージは、「義務としてやるもの」、「大変なもの」、「好きなことを話しているもの」、「無償のもの」、など様々です。教員各々にアウトリーチ活動の実施のみならずイメージまでも委ねるのではなく、教員が参画しやすく社会に評価される仕組みづくりを体系的にすすめることにより、大学は大きな力を発揮し、社会に深い恩恵をもたらします。これは見方を変えれば、ものづくりではないタイプの学外連携を生み出す基盤づくりであり、新たな社会システム構築につながるものです。ここに、国立大学法人、かつ、女子大学から生まれるイノベーションのひとつのかたちがあるものと考えます。

～北区環境大学事業等、サイエンス&エデュケーションセンターの取り組みに関するお問い合わせ～

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学

サイエンス&エデュケーションセンター

TEL/FAX 03-5978-5471

URL <http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/>

## 共催講演会のご報告

# 「樋口一葉の生 — 弱者への、そして弱者からのまなざし」

- 【講師】 菅 聡子先生（お茶の水女子大学教授）
- 【日時】 2010年4月18日（日）14:00～16:00
- 【開催場所】 浦和コミュニティーセンター（通称：コムナーレ）  
9階 第15集会室
- 【主催】 桜蔭会埼玉支部
- 【共催】 お茶の水学術事業会
- 【後援】 さいたま市
- 【参加】 137名（参加費無料）



▲ 菅 聡子先生



講師の菅聡子先生は、一葉の肖像画が印刷された五千円札にまつわるエピソードを初めとして、女学生姿の一葉の珍しい写真に秘められた一葉の思いや、出版メディアが求める女性作家についてなど、当時の様々な資料を基にレジメとパワーポイントを利用してご紹介くださり、興味深い内容でした。

前半は、女戸主として一家を養い貧困と苦悩の道を歩んだ作家・樋口一葉（本名：奈津）の生に焦点をあててお話をしてくださいました。特に、職業作家を志して半井桃水へ入門し一葉のペンネームを使用した頃の日記や、生活苦の中で下谷龍泉寺町へ転居した時期の日記「塵之中」などを通してのお話は、一葉の思いを具体的に知ることができる内容でした。

吉原遊郭が近くにあった龍泉寺町での生活体験は、一葉にとって大きな転換期であり、明治日本の近代化の陰で疎外されてきた弱者や当時の社会構造にも一葉は目を向け、そのまなざしが晩年の「奇跡の十四カ月」といわれる代表作を生み出す土壌となったとのお指摘がありました。

後半は、一葉の代表的な作品である『にごりえ』と『たけくらべ』の一部を流暢に朗読していただき、そこに登場する男女のさまざまな思いを具体的に解説してくださいました。特に

『にごりえ』では、主人公の私娼・お力の生について、馴染み客源七とその妻お初との関わりとお力の非情なる孤独を、『たけくらべ』では若い美登利と仏門にはいる信如との隔たりを現実には越えられない非情として、明快に説明していただき大変印象に残りました。

明治29年11月23日、24歳で早世した一葉は、沢山の日記を残し、女として女性作家としての自分を冷徹に見つめ、社会に向けて、この世の真実は何かと書き記しています。「われは女成りけるものを・・・」（明治29年2月20日の日記より）、この言葉は一葉の永遠のテーマとして現在も生き続け、私達にジェンダーの視点からも問いかけています。

満席の会場で、参加者はメモをとったり、時に深く頷いたりしながら、熱心に聞き入っていました。先生の斬新で深い考察に敬意と共感を抱いた人が多く、講演後のアンケートには、「もう一度一葉の作品を読み直そう！」との声や、「この講演のパート2を聞きたい」との要望も多数ありました。

樋口一葉の作品にこめられた“思い”を各人が深く見つめ直せる好機となり、新しい発見と問題提起のあった講演会でした。

（桜蔭会埼玉支部長 青木和子氏より）

## 事務局よりお知らせ

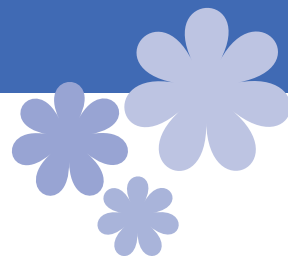
## 講演会共催のパートナー募集および講師のご紹介について

お茶の水学術事業会では、講演会やセミナーを共催していただける団体を募集しております（一定の条件があります）。また、ご要望に合わせて、講師をご紹介いたします。

詳しくは、事務局までお問合せください。

TEL&FAX:03-5976-1478 E-mail:info@npo-ochanomizu.org





# お茶の水女子大学 イベント情報

2010年10月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2010年 10月1日(金) ～11月12日(金)	第10回附属図書館企画展示 「図書館シアター～映画の原簿本特集～」	無料	【会場】お茶の水女子大学附属図書館1階キャリアカフェ横 【詳細】附属図書館のHPをご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html">http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html</a> 【お問合せ】E-mail: library@cc.ocha.ac.jp
2010年 11月15日(月)～ 12月22日(水)	第11回附属図書館企画展示 「よみがえれ文豪～いい本は何年経ってもいい本だ～」		
2010年 10月29日(金) 12:45～13:00	ピアノミニコンサート ◆演奏者：音楽表現コース在学学生	無料	【共催】お茶の水女子大学図書館、音楽表現コース 【場所】図書館ラウンジ 【詳細】附属図書館のHPをご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp">http://www.lib.ocha.ac.jp</a> 【お問合せ】E-mail: library@cc.ocha.ac.jp TEL: 03-5978-5838 ※毎月末日に、定例として約15分間のミニコンサートを行う予定です。
2010年 11月13日・14日	第61回 徽音祭 テーマ：「立てば芍薬 座れば牡丹 踊る姿はお茶の華」		今年のテーマは、かの有名なことわざを、お茶大らしくアレンジしました。「歩く姿は百合の花」のようにおしとやかなだけでなく、「女子大でもこんなことができるんだ!」という女子大パワー、お茶大生が徽音祭で輝く姿を表現し、盛り上がりたいという気持ちが進められています。詳しくは、公式HP <a href="http://kifc2010.web.fc2.com/">http://kifc2010.web.fc2.com/</a> をご覧ください。
2010年 12月11日(土) 10:00～12:00	平成22年度 幼児教育未来研究会 テーマ：幼小をつなぐ遊び・学び ◆事例提供：二葉すこやか園 ◆助言：秋田 喜代美 先生 (東京大学大学院)	無料*	【会場】お茶の水女子大学附属幼稚園 【詳細・お申込み】 「幼児教育未来研究会」のHPをご覧ください。 <a href="http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/">http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/</a> *資料代をいただく場合がございます。

## 共催講演会のご案内



### 「地理的思考」

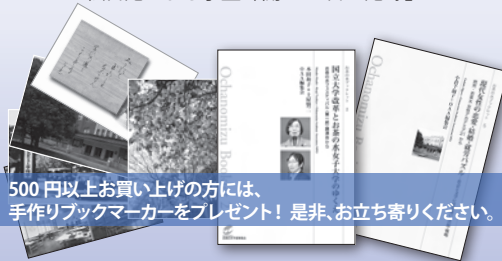
講師 外山 滋比古 氏  
お茶の水女子大学名誉教授

【主催】お茶の水地理学会 【共催】お茶の水学術事業会  
【日時】11月27日(土) 14:00～16:00 (参加費 無料)  
【場所】お茶の水女子大学 本館 306  
【申し込み方法】はがきかFAXかEmailで下記まで(締め切り 2010年10月31日)  
住所・氏名・電話番号・卒業学科を記入 \*保育ご希望の方は必ずお書き下さい。  
〒112-8790 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 文教育学部 地理学教室  
FAX: 03-5978-5185 Email: chiriog@yahoo.co.jp  
定員を超えた場合は抽選後、はがきにて可否を連絡いたします。  
皆様のご参加をお待ちしております。

2010年11月13日(土)・14日(日)

### 徽音祭に お茶の水学術事業会も参加します!

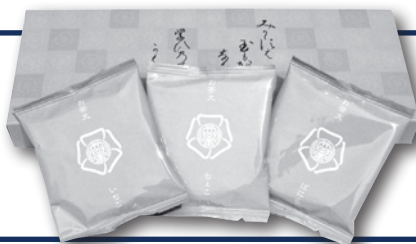
- 屋外テントにて、下記の販売を行います。
- お茶の水ブックレット (1冊 500円)
  - お茶大クリアファイル (1枚 120円)
  - お茶大絵はがき (1枚 80円)
  - DVD「絵日記による学童疎開600日の記録」



500円以上お買い上げの方には、  
手作りのブックマークをプレゼント! 是非、お立ち寄りください。

## お茶大ゴール 好評発売中!!

お茶大ゴールのご注文は お茶の水学術事業会事務局まで  
E-mail: info@npo-ochanomizu.org  
TEL&FAX: 03-5976-1478



- ばにら・ちょこ・いちご  
各4枚入 600円(税込)
- 地方発送も承っております(送料はお客様負担となります)

## お茶の水ブックレット 9

『子どもは変わる・大人も変わる  
—児童虐待からの再生』発行

お茶の水学術事業会は、2010年7月にお茶の水ブックレット9『子どもは変わる・大人も変わる—児童虐待からの再生』を発行しました。今回は「児童虐待」をテーマとして、発達心理学の立場から内田伸子教授にご執筆いただきました。大阪西区の2幼児放置死など深刻な虐待事件が多発している折、本書にも大きな関心が寄せられています。著者の内田氏にお話を伺いました。



▲内田 伸子 氏



**Q.** 本文第四章の養育放棄された姉弟「FとM」の再生物語には、強い衝撃と感動を受けました。先生はどういうきっかけからこの事例に立ち会われたのですか。

**A.** 恩師の藤永保お茶の水女子大学名誉教授（当時発達心理学教授）が、サンケイ新聞社から「この子たちが社会復帰を果たせるよう補償教育をしてほしい」との依頼を受けて、2人の重篤な遅滞の状況から言語認知、臨床各領域の回復のための専門家によるプロジェクトチームを組織された時、言語発達研究が専門であった私にも要請があったのです。

**Q.** 「FとM」をご自宅へ迎え入れて慈しまれたご様子を読み取れますが、どんなお気持ちからでしたか。

**A.** 夏休みに家庭児が過ごすような時間を体験させたいという思いで2人を自宅に連れてきました。家族も応援してくれ、私自身が3児の母親になったような気分でした。2人を施設に迎えに行く時は私の娘も一緒に、FもMも娘の姉兄のようになって3人で仲良く夏休みの1週間を過ごしました。2人が帰る日はいつも別れを悲しがって泣く娘を、2人は「来年また来るから泣かないで」と言い聞かせてくれ、1年後を約束して施設に戻って行きました。娘はお茶大で発達心理学を学んでから小児科医になりました。虐待された子どもを診ることもあるそうですが、FとMの存在は希望を与えてくれると、今も2人のことを話題にしています。

**Q.** 「FとM」は成人後どのようにしていますか。

**A.** 2人が高校卒業後、Fが家電メーカーに就職し、Mが自衛隊に入るまでを見届けました。その後も施設と連絡をとりあい、当時の園長先生、保育士、職員の方々とも交流があって、2人の暮らしぶりを伺っています。Fは地方都市で専業主婦として3人の子どもの母親。Mは大都市のサラリーマンで1児の父親。2人とも幸せに暮らしています。

**Q.** 「FとM」について他に何かエピソードがありましたらお教え下さい。

**A.** 姉Fが36歳の時に施設で再会しました。退職した職員の補助でパート勤務中でした。久しぶりに会って懐かしさいっぱいでの経つのも忘れるほどでした。やがて年末に、彼女から心のこもった礼状と夫君の勤務先の製品のお歳暮が届いて感激しました。私からもお子さんにとお煎餅を送りましたら、「お礼の気持ちを表したのに返礼をいただいて恐縮です」との電話でまたまた感激でした。この時の礼状に、「小学校の頃の一番の思い出はMと私で先生のお宅にお泊りしたこと。お風呂上がりのミルクのかき氷がとても美味しかったのが昨日のことに鮮やかに思い出されます」とあり、私の思いから2人を夏休みに自宅に連れてきたのですが、FとMにとっても嬉しい体験だったのだと安堵しました。翌年もお中元とお歳暮が届き、ひとりの女性として立派に成長したFの姿がとてもまぶしく、心底嬉しかったです。

（続きは次号に掲載します）

「家族」について、あらためて考えてみませんか？

お茶の水ブックレット7

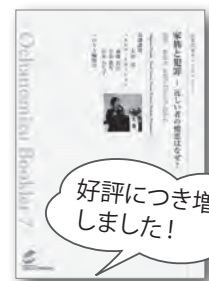
『家族と犯罪

—近い者の憎悪はなぜ？』

● 基調講演：久田 恵

● パネルディスカッション

：戒能 民江、小谷 眞男、宮本 みち子



好評につき増刷しました！

本書は、2006年10月28日に開催された「第三回 読売・お茶大 女性アカデミア 21」の内容を収録したものです。

★お茶の水ブックレットのご注文・お問合せは下記まで

お茶の水学術事業会事務局 【1冊 500円・送料別】

TEL&FAX: 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org

## 男女共同参画促進事業のご報告

# 今年度も大好評！ 「文京区 女性のためのパソコン教室」

【日時】 2010年6月22日・23日・29日・30日 13:30～16:30

【会場】 文京区教育センター（文京区春日1-9-21）

【講師】 西村文恵氏（株式会社ハッピーコム）

【共催】 文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課  
お茶の水学術事業会



## ◆主な講習内容

1	【Word】基本操作と名刺作成 ・差し込み印刷・クリップアート・テキストボックスなど
2	【Word】案内状の作成 ・文書編集・表の作成・切り取り線の作成など
3	【Excel】基本操作と請求書の作成 ・データ入力・表示形式・数式と関数など
4	【Excel】グラフ作成とデータベース ・縦棒グラフ・円グラフ・データの並べ替え・データの抽出など 【演習問題】 ・地図作成・案内状作成・報告書作成・ワークシートの編集・データの集計

主体的に社会参加をしようとする女性を対象として、「男女共同参画週間」（6月23日～29日）に、文京区と共催で行うパソコン教室は、今年度で3回目となりました。「1人に1台パソコン」と言われる世相を反映して応募者が年々増え、今年度は募集20名に対して、20歳代から70歳代までの幅広い世代から、120名を超える応募がありました。

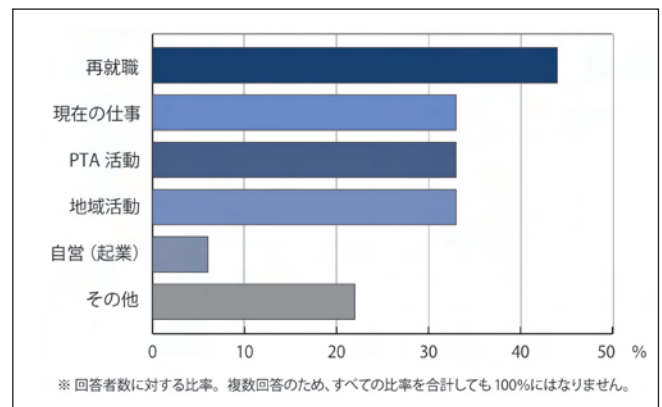
初日には、文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課の小池課長より、2009年9月に実施された「男女平等参画に関する区民意識調査」（有効回収数976票）の結果についてのお話がありました。

それによると、「結婚・出産については個人の意志を尊重すべきだ」と考える人の割合が高く、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感する人は少なくなっているそうです。ワーク・ライフ・バランスについては、「仕事と家庭生活をともに優先したい」と希望する人が多いのに対し、実際には、女性では「家庭」を、男性では「仕事」を優先する割合が高くなっていました。また、学校教育については過半数の人が「男女平等である」と評価しているものの、それ以外の場面では依然として「男性優遇」と感じている人が多いという結果だったそうです。理想と現実はまだまだ開きがある中で、男女平等参画社会を実現していくために、1人1人が小さくとも自分にできることを考え実行していくことが大切であるというお話でした。

続いて、パソコンの講習に入りました。受講生はメモをとったり、分からないところを質問したりしながら、積極的に取り組んでいました。

講習終了後に行ったアンケートでは、講習の内容・レベルについては89パーセントが「ちょうどよい」、講師の教え方については全員が「分かりやすい」と回答していました。「苦手意識がなくなりうれしい」、「楽しく学べたので、今後勉強していこうという気持ちになった」といった感想もあるなど、今回も大好評でした。

図1 アンケート結果 今回のセミナーの役立て方について



今回のセミナーの役立て方についても尋ねたところ、「再就職」という回答が一番多く、続いて「仕事」、「PTA活動」、「地域活動」が同率となりました。「その他」では「資料作成」、「お稽古の宿題」等があげられており、生活の中でパソコンの果たす役割が多様化していることが分かります。（図1）

また、「女性の社会参加・再就職に役立つと思うセミナーは？」という質問への回答では、やはりパソコンに関するものが圧倒的に多い一方、「IT関連」、「ファッションの講習」、「会話・スピーチの練習」などもあげられ、女性の社会参加・再就職には様々なハードルがあることがうかがわれました。今後の事業会活動の参考にしていきたいと思えます。



## 協賛事業のご報告

## 語り伝える大切さ

## 『絵日記による学童疎開600日の記録展』

【日時】2010年8月3日～15日

【開催場所】神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぶらざ）

【主催】平和祈念プロジェクト21、[絵日記による学童疎開600日の記録展]実行委員会

【協力】お茶の水女子大学附属小学校 【後援】お茶の水女子大学附属小学校教育後援会、桜蔭会、作楽会、鏡影会 他

【協賛】お茶の水学術事業会 ※お茶の水学術事業会は「教育・研究活動事業」の一端として、この企画展を協賛しました。



終戦から65年目を迎えた今夏、改めて平和の大切さを訴えたいと、平和祈念プロジェクト21が、これまでに集めた疎開児童の絵日記や疎開にまつわる資料の展示を行いました。

会場には、実際に使用していた「東京女子高等師範学校附属国民学校集団疎開学園」の木札がかけられ、戦争が始まった昭和16年12月8日から集団疎開が解散した昭和21年3月8日までの絵日記が、当時の写真や家族らと交換した手紙などとともに展示されました。3000枚を超える絵日記の中から展示するものを選び160枚あまりのパネルにまとめる作業は、実行委員会のメンバー15名が行いました。

期間中の6日には上田博章氏による講演「父は学童疎開の企画立案者」、8日には沖縄の対馬丸記念館館長高良政勝氏による講演「水に流せない過去」（家族11人で対馬丸に乗船し、9人を失う）が行なわれました。また11日には「夏の会」の6人の女優さんが横浜市立本郷中学校の生徒さんと一緒に朗読劇「夏の雲は忘れないーヒロシマ・ナガサキ1945年」を上演し、戦争の悲惨さを訴えました。

12日間で1230余名が訪れ、写真を指差しながら懐かしそうに当時を振り返る人々や、一緒に絵日記を読む親子連れの姿も見られました。

表現力豊かな絵とともに親元を離れた子どもたちが助け合い工夫しながら生活する様子が描かれた絵日記には、美しい言葉遣い、感謝や労りの気持ち、忍耐強さなど、今の私たちが

見習うべきことも沢山あります。けれども体験者の一人が、「長生きしている自分の姿は思い浮かばなかった」と回想しているように、これは「夢」や「希望」よりも「死」が子どもたちの身近にあった日々の記録です。母親宛に「だるまさんのようにがまんしています」と記したはがきなどもあり、子どもたちが絵日記には「ひもじい」、「寂しい」、「悲しい」といった本音を書けなかったことが分かります。

その一方で、戦争末期から終戦にかけての心の揺れ、戦争が終っても疎開が続くことへの失望、それまでとは180度異なる価値観への戸惑いなどが、絵日記の子どもらしい表現からは伝わってきます。終戦から数年後に、疎開中の絵日記がゴミ箱に捨てられているのを見つけたという父親の手記は、戦争が子ども心に残した傷の大きさを物語っていました。

展示の最後に、「戦争を知らない孫たちへの手紙」と題して記された「大人が「戦争」をすると大人たちだけではなく子どもたちもずいぶん辛い悲しい目にあうことになるのだよ。」という文面に、来場者ひとりひとりが大きく頷いたのではないのでしょうか。「二度と同じ過ちを繰り返さないように。」—辛かった小学生時代の記録を「時代の証言者」として残すことで、未来の子どもたちにも戦争の恐ろしさや平和の大切さを伝えたいという平和祈念プロジェクト21の願いを、私たちがしっかりと受け継いでいかなくてはいけないと感じました。



## 『平和祈念プロジェクト21』の活動について

★「平和祈念プロジェクト21」の活動については、ホームページ (<http://www.h5.dion.ne.jp/~s600days>) をご覧ください。

★DVD『絵日記による学童疎開600日の記録』(28分、3,000円、送料別)のお問合せとご注文は E-mail: [enikki@k4.dion.ne.jp](mailto:enikki@k4.dion.ne.jp) TEL/FAX: 044-433-7497 へ

# 山崎直子宇宙飛行士OFK返還記念講演会 「初めての宇宙飛行を終えて」

日時：2010年7月8日（木）14:00～16:00

場所：お茶の水女子大学 徽音堂

主催：お茶の水女子大学附属高等学校



▲ リラックスした笑顔を見せる山崎さん

スペースシャトルディスカバリー号で15日間（2010年4月5日～20日）の宇宙飛行を終えた宇宙飛行士の山崎直子さんが、母校であるお茶の水女子大学附属高等学校を訪れ、スペースシャトルに搭載されていたミニ校旗と認定証を返還するとともに講演を行いました。在校生、現・旧教職員、保護者、卒業生など約900名が、山崎さんら同窓生の快挙に惜しめない拍手を送り、宇宙飛行にまつわるお話や高校時代の思い出などに耳を傾けました。

高校時代は宇宙への思いを温める原点であったという山崎さんの講演は、宇宙飛行中の映像を用いて進められました。スペースシャトル発射時は振動がとて大きく、最大で体重の3倍にあたる3Gの加速がかかること、レーダーが壊れてしまうというハプニングに見舞われながらも国際宇宙ステーションにドッキングし6t以上の実験装置を運び込んだこと、無重力を生かして重い荷物をクレーンからクレーンへとパスして移動させた様子など、興味深いエピソードが紹介されました。

今回のミッションで山崎さんはロボットアームの操作を担当して多目的モジュール「レオナルド」の取り付けと取り外しを行いました。周囲の物を傷つけないようにするため、とても慎重に行われた作業だったそうです。南極上空を通過したときはオーロラを上から見下ろし、宇宙から見た地球は地面と海のコントラストがとても美しかったと印象を語ってくださいました。



▲ 附属高校で作成した山崎さん応援ポスター

## ◆ 主なプログラム

1. OFK（公式飛行記念品）返還式
2. 講演「初めての宇宙飛行を終えて」
3. シンポジウム「宇宙へのあこがれ」（司会：村井利行教諭）  
山崎直子さん（H元年卒） JAXA 宇宙飛行士  
松本暁子さん（S59年卒） JAXA 宇宙医学生物学研究室  
杉田尚子さん（H元年卒） JAXA 宇宙産業連携グループ  
谷 瑞希さん（H16年卒） JAXA 宇宙輸送ミッション本部

講演に引き続き、在校生との間で熱気に満ちた活発な質疑応答が繰り広げられました。いくつかをご紹介します。

**Q.** 山崎さんにとって宇宙に行く意義は何ですか？

**A.** 一つは小さい頃からの憧れを実現させるということ。もう一つは、国際プロジェクトを多くの国の人と協力して成功させるということです。国際宇宙ステーションにはいろいろな国の人っていて、水や空気もリサイクルしており、まるで地球上のでき事を凝縮しているようだと思います。

**Q.** 一番心に残ったことは何ですか？

**A.** 日の出、日の入りが印象に残っています。大気層が虹色に輝き、空気がないため太陽の光が白く強烈でした。星や天の川も瞬かす、澄んだ光がとてもきれいでした。



▲ 在校生と山崎さんとの間で活発な質疑応答が繰り広げられました。

Q. いろいろな国の人と仕事をして難しかったことは？

A. 宇宙ステーションでは英語とロシア語を使うので、言葉では苦労しました。分からないときには「分からない」と言うことが大事で、勇気を持って話に割り込んで「分からない」と言うよう心がけていました。

Q. クルー同士で価値観が違って困ったときはどうしましたか？

A. 相手を理解するよう努力すると同時に、自分のことを伝える努力も大切です。互いに耳を傾け、同じ目標を持っていれば、頑張ることができます。

Q. 高校時代で印象に残っていることは？

A. 農園実習が楽しく印象的でした。高校時代は一日一日を大切に過ごしました。一生懸命やるのは泥臭いことではなく楽しいことであると思ったことがよかったです。

続いて、「宇宙へのあこがれ」というテーマで行われたシンポジウムでは、JAXA（宇宙航空研究開発機構）で働く3人の同窓生が加わり、現在の仕事の内容や高校時代の思い出、高校での生活がどのように職業に結び付いてきたかなどを語りました。

今回のミッションで山崎さんの専任医師として医学チェックを担当していた松本さんは、スペースシャトル打ち上げ当日、清々しい顔の山崎さんを見て「大丈夫」と思ったというお話を、杉田さんは、打ち上げ前の9日間を隔離状態で過ごしていた山崎さんと頻りにメールを交換していた、そのような山崎さんに「余裕」を感じていたというお話を、それぞれ披露していらっしゃいました。谷さんは、スペースシャトル発射の音響体験のDVDを持参され、打ち上げ台からわずか3kmの地点からの発射の様子を、音と映像で体感させていただきました。

さらに、打ち上げ当日の様子として、附属高校の在校生、卒業生、先生の有志が高校に集合し、打ち上げの瞬間を皆で見守り、その成功を祝ったことも映像で紹介されました。



▲左から村井教諭、谷さん、杉田さん、山崎さん、松本さん

シンポジウムの最後に、附属高校の先輩として後輩へのメッセージをお願いしたところ、

「高校生活があつて今があります。自由で伸び伸びした校風を生かして羽ばたいてください。」（谷さん）

「自分の同級生が宇宙飛行士になりました。昨日の夢は現在・未来へとつなげていけば現実となりますので、大事に過ごしてください。」（杉田さん）

「『簡単だからではなく、困難だから月にチャレンジする』というJ. F. ケネディの言葉は人生にも当てはまります。お茶の水スピリットで人生を切り開いてください。」（松本さん）

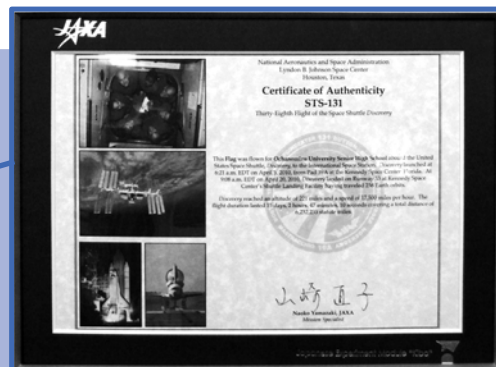
「宇宙では地球の常識は通用しません。また、世の中はどんどん変化していきますが自分の経験は自分の中に必ず残るので、今の常識に捉われずに突き進んでください。」（山崎さん）

というお言葉を贈ってくださいました。

2時間という限られた時間でしたが、総合司会を務めた高校3年生の矢萩稜子さんの機知に溢れる進行のもと、大変に充実したひとときとなりました。

協力：お茶の水女子大学附属高等学校

会場写真撮影：原野教諭

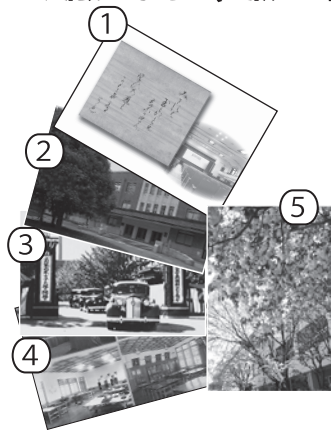


(撮影：附属高等学校新聞部)

▲ミニ校旗と認定証は額に入れられ、9月1日の始業式で改めてお披露目されました。

# お茶大絵はがき・クリアファイル好評発売中!

◆絵はがき (1枚 80円)



1セット(5枚組)400円  
(税込・送料別)



⑥ 大学正門



⑦ 大学本館中庭にて



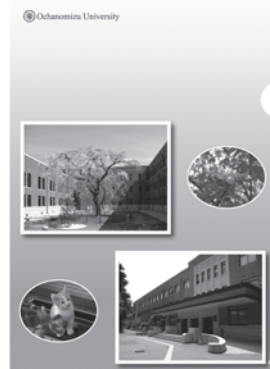
⑧ 大学本館2階廊下



⑨ 大学本館階段

◆クリアファイル (1枚 120円)

10枚以上まとめてご購入の場合は  
割引があります。



撮影: 大塚常樹氏

(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)

お問い合わせは お茶の水学術事業会へ

ご購入を希望する絵はがき・クリアファイルの番号と必要枚数をご連絡ください。(送料80円~)

ヤマザキ

www.yamazakipan.co.jp



## おいしいパンと暮らそう。

たとえば、新鮮な朝の空気を深呼吸したり、  
庭に咲く小さな花を見つけたり、  
朝食のパンがおいしかったり。  
特別なことじゃなくて、  
そんな、ふとした時に感じる幸せが、  
毎日をちょっと素敵に、  
豊かにしてくれるのだと思います。



## ライフサイエンスから生まれたスキンケア

細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分 cPA (シーピーイー) は、  
あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。  
雅Graceは cPA を配合した世界初のスキンケアです。

室伏きみ子 (お茶の水女子大 教授) 監修

新成分  
**cPA**  
配合

肌の  
ヒアルロン酸  
増加

保湿  
成分

コラーゲンの働き  
強化



雅Grace

グレイス化粧水 150mL

雅Graceグレイス乳液 100mL  
雅Graceグレイス美容液 30mL

\*写真は、グレイス化粧水 150mLです。

美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。  
**雅Grace —グレイス—、誕生。**

販売元: SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB <http://c-pa.jp/>

なお、お茶の水学術事業会で、特別価格でお取り扱いをしております。  
詳しくは、本会事務局まで お問い合わせください。

E-mail: [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL & FAX : 03-5976-1478

### 編集後記

いつもより4ページ多い12ページ版「ellipse第23号」、いかがだったでしょうか。ページ数が増えたということは、それだけ多くの方々にご協力いただいたということ。本当にありがとうございました。これからも「読みがいのある」ellipseを目指して頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします。皆さまからの感想や寄稿もお待ちしております。

### 広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は2011年1月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

### 事務局

**OPEN 月~金 10:00 ~ 16:00**

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org)  
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204

### ◆交通機関

地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分

都バス  
大塚2丁目バス停すぐ